

事業実施テーマ

穴あけ・切削加工技術の高度化による
特注家具の短納期生産の実現

企業紹介



本社ショールームには200点以上の製品が並び

ユーザー目線のものづくり
手掛けるのは無垢材による健康家具

株式会社久和屋は昭和23年（1948年）に創業、創業以来静岡県駿河区中田本町を本拠地として木製家具の製造を営んできた。同社は「健康家具」をコンセプトに人・環境・住宅に優しい家具作りを手掛けてきた。平成8年からは、安全性を重視した天然植物性オイル塗料の使用を開始し、県内産の無垢材を中心に、熟練職人の技能により加工していくことで、確かな質感と安心安全の両立が図られている。

平成26年には「合法木材認定事業者」に認定されるとともに、安心・安全・環境保全の観点で6つの基準を満たしていることから、「国産家具事業者」にも認定された。

自社コンセプトの追求を行うことで、付加価値の創造を行ってきた同社だが、顧客対応力も強みの1つであり、本社とは別に開発試作・製造拠点である大井川工場を焼津市相川に持つことで、特注品や国産プロパー品の製造依頼を受け付ける体制が整っている。

大手家具メーカーにおける低価格帯の製品が猛威を振るう中、自社のブランド作りを行っていくことで、リピーターの定着と新規顧客の獲得に取り組んでいる。

取り組みの経緯



本事業により導入した複合ボーリングマシン

確かなブランド力により受注増加
見え始めた生産プロセス上の課題

景気の低迷による業界全体の不振や、低価格家具を全国展開する大手メーカーの台頭もあったが、同社における特注品の工場生産高は増加傾向にあり、「久和屋」ブランドの木製家具市場での市場優位性は十分にあると言えた。

一方で、市場ニーズに応じていく段階で、自社における生産プロセス上の課題も表面化することとなった。

同社では主として無垢材を用いた製品づくりを行っており、穴あけや切削加工は必須の工程となるが、既存のボーリング機は老朽化が進んでおり、生産台数の増加に伴い不良発生件数も増え、生産効率の低下の要因となっていた。

また、生産プロセスにおいて、穴あけ・切削加工を中心とした実加工期間が全体の半分の時間を要し、特注品等の製作依頼に対し、加工速度が追いついていなかった。

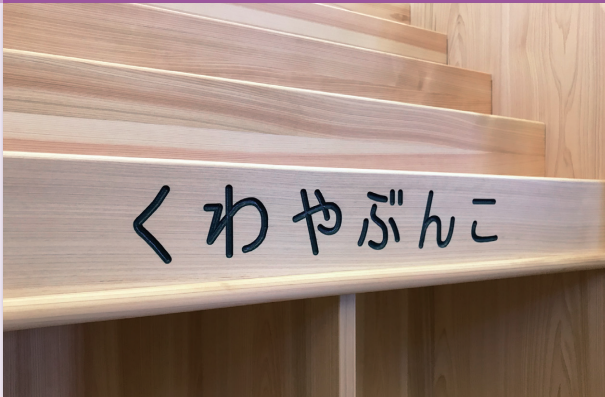
このような状況の中、希望納期への対応ができずに機会損失に至るケースもあったが、生産プロセスの改善が叶えば受注の拡大も見込めていたため、本事業に取り組むことを決めた。

▶ 会社概要

- 社 名：株式会社久和屋
- 代表者名：代表取締役社長 望月嘉朗
- 所在地：〒422-8043 静岡県駿河区中田本町51番21号
- 取材地：〒421-0216 焼津市相川1570(工場)
- 設立年月：昭和23年4月
- 資本金：20,000千円
- TEL：054-281-0908
- URL：http://kuwaya.co.jp



▶ 取り組みの内容



特注の児童用書棚には精密切削も行う

特注品の短納期を目指して 製造工程の高度化における課題

本事業に取り組むにあたって同社が必要としたことは、穴あけ・切削加工技術の高度化であった。無垢材加工において避けられない工程だからこそ、生産プロセス向上には必須事項であった。

具体的には、複合ボーリングマシンを導入することで“安定性”と“リードタイム短縮”の2点の実現を図ることを目標とした。

導入マシンの仕様については、業者との細かな検討を行い、“安定性”においては従来機よりも高出力で、加工データのプリセット化に対応している点を重視した。

“リードタイムの短縮”については、切削ツールの付け替えの自動化やマルチスピンドルによる穴あけショット数の効率化、シミュレーション機能による段取り時間の短縮によって作業効率の向上を図ることとした。

また、従来ルーターで行っていた溝突き・切断加工については、新たに90度旋回鋸軸を採用することによって、複雑な造形についても並行処理できることを目指した。

▶ 結 果



自社設計の難しいライン造形にも対応

穴あけ・切削加工の効率化を実現 技術基盤の確立と新たな事業展開

特注品の短納期化に向けて行われた本事業は、穴あけ・切削加工能力の向上によって、その実現に至った。工場内における生産プロセスにおいては、加工データのマニュアル管理化を実現することで、基本的な操作さえ習得すれば、マシンを誰もが扱えるようになった。また、加工精度の向上により、バリやワレの出やすい無垢材においても補修要因の抑制へとつながった。

今回の事業成果は、新たな展開にも結び付いている。従来の“健康家具”のコンセプトに加え、デザイン性にも注力しており、専属デザイナーの登用を行っている。自社オリジナル家具のほか、新事業として仏壇の製造にも取り組んでおり、無垢材の優しい風合いと洗練された意匠が売りであるが、扉の複雑な意匠を実現可能にしているのが、導入ボーリングマシンである。「今まで、クローゼットなどの“箱モノ”を得意としてきた当社だが、更なる技術の高度化を図りながら、イスなどの“足モノ”も本格製造していきたい」と望月社長は語る。同社の総合家具メーカーに向けた、一挙手一投足に今後も目が離せない。